

3 りんごの効率的な生産方式の導入(経営面積60a→180a)

前提(新規就農タイプ)



既存園地を第三者継承などで確保した新規生産者が、元園主の伴走型支援のもと経営を開始。経営開始資金等受給終了後(就農後3~5年経過)、優良品種やわい化栽培の導入、作付拡大などにより所得の向上を図ります。

現状



経営内容

品種構成	普通台つがる 5a 普通台ジョナゴールド 5a 普通台王林 10a 普通台ふじ 40a
------	--

販売数量 1,913kg/10a

平均単価 227円/kg

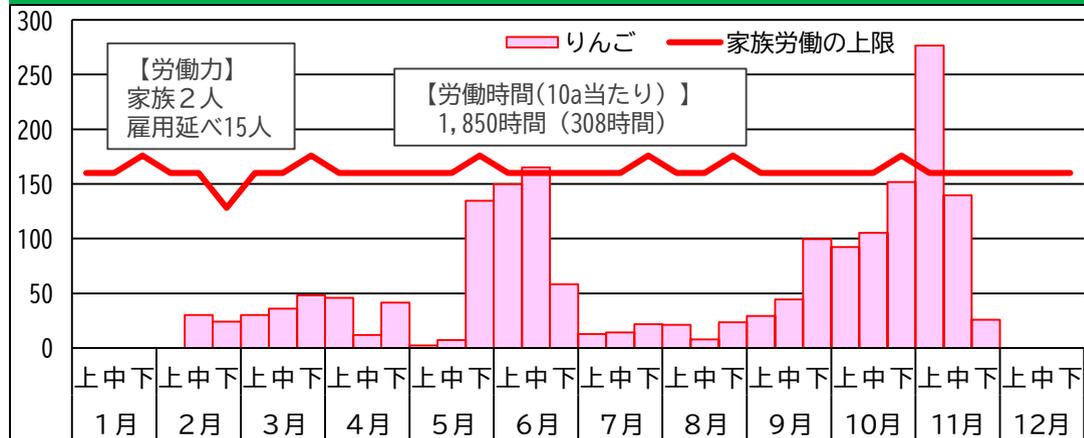
主な資本装備 スプレー(共同利用)、乗用草刈機、軽トラック等

※現状の規模・販売収量等は県調べ、単価は産地市場価格過去5カ年うち中庸3カ年の平均

経営収支

粗収益	2,605千円
経営費	2,187千円
所得(所得率)	418千円 (16.0%)

労働時間



問題点



- 温暖化により早生品種の栽培が困難、気象災害のリスクが増加



日焼け果の多発

- 病害虫の発生により製品化率が低下
- 適期管理の不徹底
- 経営が成り立つ規模の栽培面積が必要

プログラムのポイント



- **優良品種**の導入と**わい化栽培**への改植
→ 晩生種への偏重が解消されるとともに、収量、単価が向上します。
- りんご単作から新たに**もも**を導入
→ 気象災害によるリスク分散と労力分散が図れます。
- **総合的な病害虫管理**の実施
→ 病害虫発生密度が低下し、農薬の使用低減につながります。
- **摘花・摘果剤**の使用、**機械作業体系**の導入
→ 労働時間の削減により適期管理を実現します。



高所作業台車の導入

- 農地中間管理機構などの活用による、**経営面積の拡大**
→ 経営が成り立つ規模の収穫量が確保できます。

導入する技術



優良品種・品目への転換（つがる→きおう、もも）

効果

「つがる」を黄色品種「きおう」へ改植、さらに高温に強いももを導入することにより、販売収量が20%程度増加し、販売単価が最大60%向上します。

1,913kg/10a→2,318kg/10a (405kg/10a増)

196円/kg→322円/kg (126円/kg増)

黄色品種を導入することで、着色管理作業が不要になり、その他の作業ができます。

50時間/10a→0時間/10a

経営収支（作付面積10a）

項目	現状	導入後
粗収益	374千円	668千円
経営費	357千円	396千円
所得 (所得率)	17千円 (4.5%)	272千円 (40.7%)

わい化栽培の導入

効果

販売数量が普通台に比べ25%程度増加します。

2,475kg/10a→3,094kg/10a(619kg/10a増)

収量当たり作業時間が、普通台に比べ20%削減されます。

72時間/t→58時間/t (14時間/t)

定植5年目で約3.5t/10a収穫可能です。

経営収支（作付面積10a、ふじ）

項目	現状(普通台)	導入後
粗収益	762千円	952千円
経営費	467千円	536千円
所得 (所得率)	295千円 (38.7%)	416千円 (43.7%)

導入する技術



適期管理の実施

効果

人工受粉を実施した上で摘花・摘果剤を利用することで摘果作業時間が50%削減、品質が向上し、単価が5%程度向上します。

81時間/10a→42時間/10a(39時間/10a減)

280円/kg→294円/kg

摘葉剤を利用することで着色管理時間が35%削減されます。

80時間/10a→52時間/10a(28時間/10a減)

経営収支（作付面積10a）

項目	現状	導入後
粗収益	761千円	795千円
経営費	490千円	470千円
所得 (所得率)	271千円 (35.6%)	325千円 (40.9%)

機械作業体系の導入（高所作業台車、運搬車、フォークリフト、トラック）

効果

機械の導入により、運搬・出荷に係る作業時間が75%削減されます。

169時間/10a→45時間/10a(124時間/10a減)

収穫時期の作業時間のピークが緩和されるため、栽培面積を増やすことが可能になります。

経営収支（作付面積10a）

項目	現状	導入後
粗収益	795千円	795千円
経営費	495千円	470千円
所得 (所得率)	300千円 (37.7%)	325千円 (40.9%)

導入する技術



総合的な病害虫管理の実施

効果	経営収支（作付面積10a）		
<p>コンフューザーRの設置、発生予察の実施、落葉収集機の導入や耕種的防除を徹底することなどにより、主要病害虫の密度が低減し、製品化率が向上するとともに、殺虫剤の削減が可能となります。</p> <p>製品化率 85%→90% 殺虫剤成分回数 17回→12回</p>	項目	現状	導入後
	粗収益	751千円	795千円
	経営費	458千円	470千円
	所得 (所得率)	293千円 (39.0%)	325千円 (40.9%)

導入後の姿（全ての技術導入時）



経営内容

項目	現状	導入後（8年後）	増減
品 種	つがる普通台5a ジヨナゴールド普通台5a 王林普通台10a ふじ普通台40a	きおう普通台10a、トキわい性台15a ジヨナゴールド普通台5a ジナゴールドわい性台20a ふじわい性台50a 王林普通台10a、ふじ普通台40a 桃（川中島白桃、あかつき）30a	—
経営面積	60a	180a	120a増加
販売数量	1,913kg/10a	2,715kg/10a	802kg/10a増加
販売単価	227円/kg	293円/kg	66円/kg上昇

経営収支

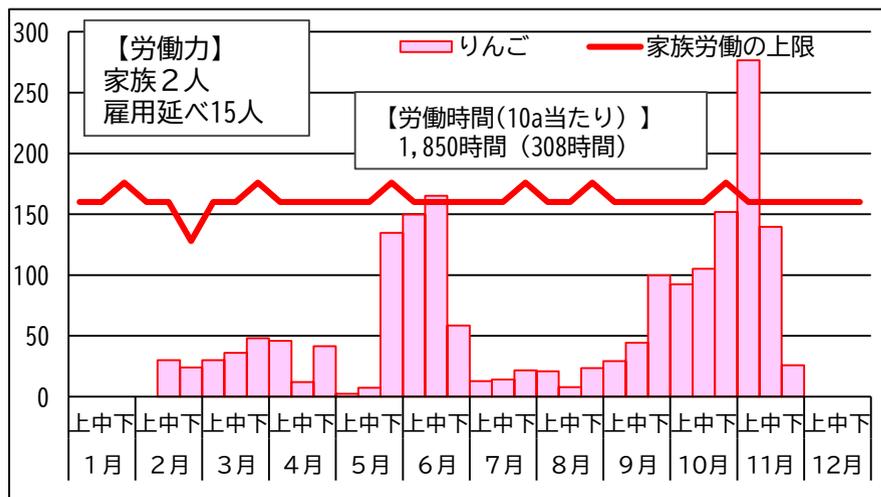
項目	現状	導入後（8年後）	増減
粗収益	2,605千円	14,319千円	11,714千円増加
経営費	2,187千円	8,460千円	6,273千円増加
所得 (所得率) 【経営面積当たり】	418千円 (16.0%)	5,859千円 (40.9%)	5,441千円増加 (24.9%増加)
所得 【10a当たり】	69千円	325千円	256千円増加

導入後の姿（全ての技術導入時）

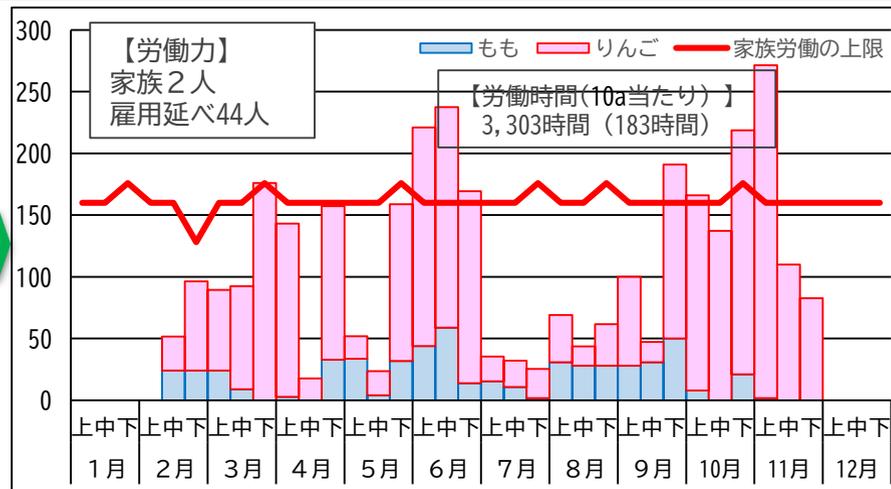


労働力・労働時間

現状



導入後（8年後）



作付面積・生産量の拡大により労働時間が1,453時間増加
(10aあたりでは125時間減少)

資本装備

現状

- ・スピートスプレーヤ(共同利用)
- ・乗用草刈機
- ・軽トラック

追加投資

導入する設備

- ・トリシ設置費用 1,491千円
- ・高所作業台車 1,047千円
- ・運搬車 930千円(6PS)
- ・トラック 953千円(2t中古)
- ・フォークリフト 3,179千円(1.5t)

負担区分

- ・総事業費 6,109千円
- ・補助金(1/2補助※トラック除く) 2,578千円
- ・自己負担 3,531千円